

# 初心を忘れずに、成長していきたい

行政医師となり保健所に勤務して4年目を迎えました。あつという間の3年と数か月、入庁時に想像していたよりもはるかに濃密な日々を過ごしています。公衆衛生医師として駆け出しのこの時期に、経験した事や感じた事を中心に記したいと思います。今回、このような貴重な機会を頂きましたことに厚く御礼申し上げます。

## 臨床研修終了後の進路として 行政医師を選択した経緯

初期臨床研修中に入退院を繰り返して、希望していた自宅での生活がかなわなくなってしまうと高齢の患者さんに出会いました。経過を見ていた中で、「どうしたら、もう少し長く自宅で過ごせたのだろう。治療もリハビリも終えて退院したのに、なぜ再入院となってしまうのだろう。退院後はどのような生活をされているのだろう」という思いが生じ、病院の外の世界を知るために県型保健所での研修に参加させてもらいました。保健所での研修は、大学時代に

市型保健所で研修させてもらって以来2回目です。2回の研修を通じて、保健所業務のバラエティーの豊富さ、対象が患者に限られないこと、医療職だけでなく多様なバックグラウンドを持つ人々と一緒に取り組みを進めていけること、の3点に大きな魅力を感じました。また、保健所の医師をはじめとする複数の職員が熱心に指導してくださったことも印象に残っており、臨床研修終了後に行政分野で公衆衛生医師として働くことを決めました。前向きな選択ではあったものの、同級生が臨床科に進む中でメジャーではない進路へ進むことに不安もあり、入庁するときに

頻繁に来所し、常に電話対応もしてくださる万全の体制であったものの、前年度とは大きく異なる環境に戸惑いました。何をすればいいのか・何ができるのかを模索する日々の中で、上司や各チームに積極的に声を掛けていただき、複数の業務に関わること、保健所実習や学校の講義において、公衆衛生・地域保健総論を担当したことなどにより、地域において保健所が担う役割を意識しながら業務に臨むようになりました。

2年目に入つて間もない時期に経験した食中毒や感染症集団発生への対応では、保健所が行う調査や判断がたくさんの人の健康や生活に大きな影響を及ぼすことを改めて自覚し、その責任の重さから一つ一つの対応にとっても緊張しました。この時に感じた緊張感は、今後も忘れることなく持ち続けていたいと思っています。2年目も終盤となり、ようやく新しい環境に慣れてきたところで、新型コロナウイルス感染症への対応が始まりました。所内体制の構築、医療機関・消防等との調整、関係機関を集めた説明会の開催、患者発生時の対応、市町村や医療機関

は「とりあえず3年は続けてみよう。途中で違うと感じたら4年目を以降で方向転換しよう」と心に決めていたことを覚えています。

## 1年目ー公衆衛生分野に 足を踏み入れる

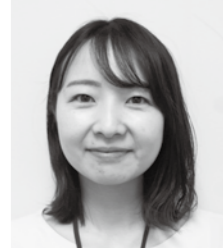
入庁後は県東部の保健所に配属され、地域包括ケアシステム構築の推進に関する業務を中心に担当しました。行政に進むきっかけとなった医療介護連携等に担当者として関わることができ、また、行政の仕事の進め方を基礎から教わり、とても思い出深い1年間でしたが、ここではあえて担当業務以外のことにについて触れたいと思います。

1年目では、指導医のご配慮の下、たくさんの方から研修やセミナーに参加させてもらいました。各分野で活躍されている方々から公衆衛生生活動に関するお話を聞き、一口に公衆衛生といってもさまざまな分野があります。最後までしっかりと学び、また、この機会に得られたご縁を大切にしていきたいと感じています。

## おわりに

「とりあえず3年…」という心持ちで入職した私が、今後も公衆衛生医師として成長していきたいと感じられているのは、これまでに会った方々のおかげです。業務や研修等を通じてたくさんの方から先方にお会いし、それぞれから公衆衛生の魅力や熱く教えていただきました。また、関係機関や地域に暮らす方々からは、保健所の取り組みがもたらす影響について省みる機会や、より良い状態を目指して一緒に進んでいくためのパワーを頂き、日々の業務に前向きに取り組んでいくための原動力となつています。

今後も、健康という分野を通じて人々が幸せに生活するためのお手伝いをしていくという軸はぶらさず、目の前にある事柄に真摯に向き合っていきたいと思います。そして、いつか後輩ができたときには、先輩方が私にしてくださったように、公衆衛生の魅力や伝えられる存在になれていると良いと思います。



高知県幡多福祉保健所  
健康障害課 主査  
兎玉 佳奈

平成28年高知大学卒業。高知県内の病院で初期臨床研修を修了後、30年に高知県に入庁し、現在に至る。

あつて、多種多様な方法で人の健康にアプローチできると知りワクワクしたこと、参加者との交流を通じて仲間の存在に心強さを感じたことが記憶に残っています。研修は災害時危機管理と感染症に関するものを数種類受講し、ここで学んだ内容は2年後に始まった新型コロナウイルス感染症対応において非常に役立ちました。公衆衛生分野に足を踏み入れたばかりのこの時期に、実務以外の場においても、学びや交流の機会を多く得られたことが、次年度以降のモチベーション維持につながったと感じています。

## 2、3年目ー保健所の役割を知り、 関係機関と力を合わせる

2年目には、県西部にある現在の職場へ異動となり、保健所に常駐する医師は1人、担当業務は保健所業務全般という環境になりました。本庁と兼務されている指導医が

「期待の若手シリーズ 私にも言わせて!」は、  
全国保健所長会ホームページに  
バックナンバーが掲載されています。

全国保健所長会 月刊公衆衛生情報

で検索してください

[http://www.phcd.jp/update/archive\\_02\\_j\\_koushusei\\_watashi.html](http://www.phcd.jp/update/archive_02_j_koushusei_watashi.html)